

2010年度 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」報告書
OSUSOWAKE Project [第1回OSUSOWAKE SALON報告]

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程1年 丸野遥香
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科社会イノベータコース修士課程1年 横山望
慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻 修士課程1年 松尾愛子

はじめに～OSUSOWAKE Projectとは～

OSUSOWAKE Projectとは、社会問題の解決方法としてチャリティという欧米の概念ではなく、日本の伝統である「お裾分け」(別称:福分け)文化に着目した社会貢献の形を提案するプロジェクトです。OSUSOWAKEマインドを広めることで、支援する人/支援される人という関係から、幸せをシェアする関係を生み出します。そして、多くの方がコミュニティの課題に対して、自分のリソースを活用しOSUSOWAKE アクションができるようネットワーク支援等を行うことを目的としています。このたび、本プロジェクト第1弾企画として、OSUSOWAKEマインドを高めることを目的としてシンポジウム「OSUSOWAKE SALON」を2010年10月24日に開催しましたので、ご報告させていただきます。

第1回「OSUSOWAKE SALON」報告

1) 目的:

OSUSOWAKE SALON(シンポジウム)では、社会問題の解決に取り組むゲストの方をお呼びし、1人ひとりができる身近なOSUSOWAKEアクションについて考えるきっかけを提供します。また、参加者同士がOSUSOWAKEについて語り合うことで、明日からOSUSOWAKEを始めたいかなるようなOSUSOWAKEネットワーク形成の場を目指します。

2) 日時: 2010年10月24日(日) 11時～13時 10時45分開場

3) 場所: オルタナサロン(東京都渋谷区神宮前5-12-7 WISEWISEビルB1F)

4) ゲスト: 菊本照子様 S.C.C(Save the Children Centre)代表

<ゲストプロフィール>



アフリカ・ケニアの首都ナイロビで、貧困問題解決のため、S.C.C (Save the Children Centre) を立ち上げる。1984年ケニア政府より社会福祉団体として正式に認可。1993年ケニアのNGOとして再登録。以来、ケニア全土の孤児院・障害児施設へ古着配布、都市スラム地域でのトイレ・水道の設置、孤児院マトマイニチルドレンズホーム(希望の家)、職業訓練校を設立するなど、25年以上にわたりナイロビで活動中。2007年2月、吉川英治文化賞を受賞。

5) プログラム

<OSUSOWAKEタイム>

OSUSOWAKEを体験してもらうことを目的とした昼食を兼ねたワークショップを行いました。参加者の皆様に、1人1品OSUSOWAKEフードを持参していただき、お互いのOSUSOWAKEフードを紹介しながら交流を深めていただきました。さまざまなOSUSOWAKEフードでテーブルが鮮やかに！



<ゲスト講演>

ゲストの菊本照子様には「国を越えたお裾分け～Save the Children Centre～」というテーマで、ケニアの貧困問題の現状とともに、菊本様が運営しているマトマイニ・チルドレンズホーム（孤児院）や職業訓練施設で生き生きと生活する子どもたちやシングルマザーの皆様の様子についてご報告いただき、支援をする側と支援を必要とする側の心の通った社会貢献のあり方についてお話いただきました。菊本様からのOSUSOWAKEとして、職業訓練施設（フェルト工房）で製造・販売されている手作りのストラップを参加者全員にOSUSOWAKEしていただきました。



6) 成果と今後

第1回OSUSOWAKE SALONでは、モノのOSUSOWAKE（食べ物持ち寄り）と情報のOSUSOWAKE（講演）の実践を通じて、OSUSOWAKEマインドを広める第一歩を踏み出すことができました。参加者の皆様からも「OSUSOWAKEを広めたい」という声を多くいただき、所属する会社のブログで今回のシンポジウムを紹介していただくなど、OSUSOWAKEネットワークが育まれつつあります。今後も定期的なサロンの開催を通じて、社会貢献に取り組むゲストの方の活動を紹介しながら、参加者の方が身近なOSUSOWAKEアクションに取り組むことのできる場を提供していくと同時に、「小さなOSUSOWAKEアクションを通じて幸せをつなぎましょう」というメッセージを世界中に発信していきたいと思っております。このたびはシンポジウム・研究ネットワークミーティング基金のご支援のおかげで、無事に第1回OSUSOWAKE SALONを開催できましたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。